ツーC分野は、消費者られやすいインを実現門的な技術採用を進め長は「新和確立するた製品を拡充調する。

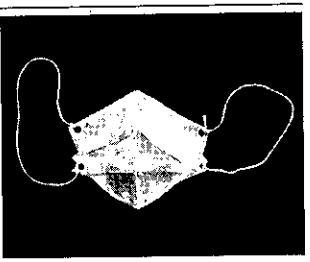
銅製マスクいかが

クラフト素材 感染症予防向け

石川金網

石川金網（東京都荒川区、石川幸男社長、03・3807・9761）は、折り紙のような金属製クラフト素材「おりあみ／ORIAMI」で、マスクの大きさに対応した18㌢×18㌢（消費税抜きの価格1800円）を発売した。抗菌作用に優れた純度99・9％の銅製で、感染症予防への活用を提案する。おりあみは布のようにしなやかで紙のように張りがある素材。折り紙のように工作でき、金属製のため紙に比べ形状を保つ力が強い。任意の形に工作でき、マスク形（写真）に工作してマスクを2重にしたり、マスクの中に入れたりすることができる。

人が頻繁に触るスイッチや受話器に貼り付けることで、感染症予防の一環になるという。同社ではおりあみをマスク形に工作する型紙をホームページで公開している。



品 マクアケで販売 顧客の声 今後に生かす

ウィズコロナ with CORONA

っており、マクアケでの販売は好調だという。特にボールペンとペンスタンドが好評を集めている。「スピーディーに始められ、在庫を抱える前にできる」と鈴木社長はクラウドファンディングの利点を語る。

マクアケでの出品は16日まで。8月以降の販売は実店舗や複数のECサイトなどを視野に検討する。販売の方向性については「マクアケの反響を分析して考えたい」と顧客の声を反映させる考えだ。

洗えるマスク、スーパーなど販路開拓

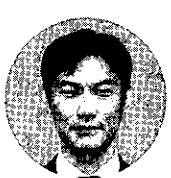
青木安全靴製造

青木安全靴製造（山形県河北町、青木稔社長、0237・72・4115）は、自社の安全靴製造技術を用いて製品化した飛沫（ひまつ）防止向け洗えるマスク（写真）で、新たな販路を開拓している。4月に山形県が実施した県産マスクの商談会を通じて、地元スーパーマーケットとの取引が始まるなど、対消費者を意識している。

同社のマスクは3層構造。表面は制菌・抗菌防臭性を持つ素材を用い、中間にウレタン、裏面にナイロンを使う。素材加工や縫製など従来技術をマスク製造に用いた。4月の販売からこれまで累計約7000㌦（2枚1組）を販売したという。

専門店などが主力の販路だったが、スーパーとの交流が生まれ新たな接点が増えた。青木直哉常務は「マスクを通じて対消費者向けの商品開発を高めたい」としている。（山形）

ラウンジ



笹田さん

自宅で就活

▽…「コロナ禍の中で、登録者数が増えている」と話すのは、シンミドウ（さいたま市大宮区）社長の笹田知弘さん。就職動画投稿サイト「きたいこ」を開設した。

▽…地元に就い学生と地元企援する。「学生紹介などを撮影画を投稿し、企きな時間に見るできるのでコスにつながる」と

▽…「新型コ影響で学生は危抱いている」と分析。「自宅で動ができれば、企業を手助けでではないか」と寄せる。（さい

情報プラッシ

◆9月に開業

東京都 江東区に整備中の「東クルーズターミの開業を9月にた。当初の開業7月14日。世界型コロナウイル症が広がり、ク船がほとんど運いないため。同ナルは開業すれトン数22万㌧クト大型クルーズ船できる。

おことわり 「庫戦」は休みまし